

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 5月 30日

【評価実施概要】

事業所番号	0171401698		
法人名	株式会社 ノア		
事業所名	グループホーム かがやき		
所在地	函館市富岡町2丁目21番7号 (電話) 0138-44-1515		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年5月26日	評価確定日	平成20年6月27日

【情報提供票より】 (平成20年5月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・○平成17 年11 月29 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤16人, 非常勤3人 常勤換算	17.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000円	その他の経費(月額)	光熱水費 15,000円
			暖房費 5,000円
敷金	有()円	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有 / ○無
食材料費	朝食	- 円	昼食 - 円
	夕食	- 円	おやつ - 円
	または1日当たり		1,200 円

(4) 利用者の概要(5月20日現在)

利用者人数	17名	男性	7名	女性	10名	
要介護1	1名	要介護2	5名			
要介護3	8名	要介護4	3名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	79歳	最低	66歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西堀病院・函館おしま病院・つしま歯科クリニック・たけだクリニック・吉田歯科口腔外科
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地の一角に建てられたホームである。ホーム内はユニットが開閉式の扉で繋がっており、ユニット合同の行事の際は、扉を開け自由に行き来ができるようになっている。外の静けさとは違い、ホーム内は明るく、運営者はじめ職員や利用者の話し声や笑い声が聞こえています。運営者は、ケアの質の向上のためには、職員の研修が不可欠と認識しており、内部、外部の研修参加のほか、現在、緩和ケア補完的な手法で、タクティカルケアを一部の職員が受講し導入を始めている。浴室には、1ユニットだけであるが機械入浴の設置もある。希望があれば夜間入浴も可能である。ホームの1日の流れはあるが、利用者は、これにこだわらず自由にのびのびと生活をしている。地域住民の理解もあり交流も盛んである。運営者、職員は常に話し合いを持ち、ケアサービスの質の向上に情熱を持って取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題については、全職員で取り組みを行ない、すでに改善されているが、家族への日常の様子に関する情報提供を行なう「ホーム便り」の発行については、まだ改善されておらず早い時期に取り組みが行なわれることを期待する。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者はじめ職員は、評価の意義と活用の仕方を理解しており、今回の自己評価は全職員で取り組んでいる。日々実践しているケアサービスを振り返りながら、会議において、自己評価について話し合い職員間での共有を図っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヵ月に一度順調に開催されている。利用者の状況やホームの行事についての報告に関し、市の職員や地域の方からの意見、助言を受けている。地域に根ざしたホームの在り方を念頭に置き、意見交換を行ない会議の内容をホームの運営に反映させている。会議記録も整備されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱も設置しており、家族の方々が、来訪した際に意見や要望を伺ったりしているほか、ホームや行政の苦情相談窓口を明確にしている。また、運営推進会議にも家族の方々の参加をお願いしており、意見を表せる機会を設けて、ホームの運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の方々との関係は良好で、町内会の行事や地域のゴミ拾いに参加したり、地域の方が、ホームに立ち寄り雑巾縫いをしたり、行事に参加していただいたりと、地域とホームの絆の強化に努めている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「愛を持って、すべての人に平等に接する・人との繋がりを大切にする・その人らしく、輝けることを見つける」を盛り込んだホーム独自の理念を掲げ、利用者が住み慣れた地域で、安心して暮らすことができるように支援し、日々のケアに活かし努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の要所に運営理念を掲げ、運営者はじめ職員は、朝礼時に復唱し、確認しながら実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方々との関係は良好で、町内会の行事や、地域のゴミ拾いに参加したり、近隣の方々が、ホームに立ち寄り、雑巾縫いをしたり、行事に参加していただいたりと、地域とホームの絆の強化に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者はじめ職員は、評価の意義と活用の仕方を理解しており、今回の自己評価は全職員で取り組んでいる。日々実践しているケアサービスを振り返りながら、会議においても、自己評価について話し合い、職員間の共有を図っている。		

函館市 グループホーム かがやき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヵ月に一度順調に開かれている。地域に根ざしたホームのあり方を念頭に置き、意見交換を行ない、会議の内容をホームの運営に活かしている。会議記録も整備されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は、市や保健所に出向いて、折衝や相談をしているほか、会議などにも参加し、常に連携を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の方々が来訪した際に、利用者の日常の暮らしぶりや、健康状態を報告しているほか、家族に電話をかけて近況をお知らせしているが、今後定期的に近況をお知らせできるよう「ホーム便り」を作成することが課題である。金銭出納については、明細をお送りしている。	○	来訪できない家族の方もいますので、ホームの行事や、利用者の暮らしぶりを掲載した「ホーム便り」や一人ひとりの様子を書いたお手紙を出すなど、早い時期に、取り組みが行なわれることを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱も設置しているが、家族の方々が来訪した際に意見、要望などを伺ったりしているほか、ホームや行政の苦情相談窓口を明確にしている。また、運営推進会議にも、家族の方々の参加をお願いしており、意見を表せる機会を設けて、ホームの運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動の際は、開所当初からの職員が中心となり、情報交換を密に、話し合いをもちながら、全職員でフォローし、利用者のダメージを、最小限にするための、配慮をするなどの対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、内部、外部の研修を受ける機会を設け、研修記録も作成されており、ほかの職員が閲覧できるようになっている。現在、緩和ケア補完的な手法で、タクティカルケアを一部の職員が受講し導入を始めている。運営者は、ケアの質の向上を図るためには、職員の研修は不可欠と認識している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、グループホーム協議会や、ブロック会議に参加し、情報交換やネットワーク作りを行なっている。職員も、ほかの業者と交流する機会を設けており、相互の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みを行なっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなりサービスを開始するのではなく、利用者や家族に見学に来ていただき、ホームの雰囲気馴染めるよう、利用者が安心して生活出来るように、十分な話し合いを持ちながら、納得したうえで、利用開始ができるように進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に、生活の知恵を教えながら、職員は、介護する立場におかず、利用者の気持ちを汲み取り、ともに支えあう関係を築いている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者との生活の中で、一人ひとりの思いを大切に、利用者や家族からの生活歴の情報なども把握し、その人らしい生活が出来よう、希望、意向に沿った支援をしている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常的に行なわれている意見交換やカンファレンスで、職員の気づきを集約して、介護計画に反映させている。また身体状況により、医療機関とも相談しながら、利用者や家族の希望を伺い、利用者のための計画作成を行ない実践している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは、3ヵ月をめぐりにアセスメントの見直しや、モニタリングを行ない、カンファレンスで、課題や改善点を話し合い、評価をしてプランを作成している。状態の変化や入退院の際は、利用者、家族と随時話し合いを持ちながら、計画の見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の方々の要望に応じ通院介助や自宅への送迎、買物の付き添いなど、その時々で、柔軟な支援をしている。又近隣住民の方々の介護の相談にも対応している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの、かかりつけ医を希望する利用者には、そのまま受診を継続していただき個別支援を行なっている。ホームは、複数の医療機関との連携ができており、24時間対応のほか、2週間に一度の往診、健康診断、口腔ケアなどが実施されており、利用者が、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた取り組みについては、利用者、家族、医師と十分な話し合いをもち、全職員が、方針を共有し、家族の方々の気持ちに配慮しながら、慎重に取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの個性を認めて、プライバシーを損ねる言動をとらないように配慮をしている。また、個人情報の取り扱いについても同意を得ており、書類も鍵のかかる場所に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの声に耳を傾け、その日の体調や希望にあわせ、日々その人らしい暮らしが出来るように、できる限り希望に沿うよう見守り、支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食事をし、さりげなく見守ったり、声掛けをしている。利用者の好みのものが食べられるように、希望を聞いたり、料理の本を見せるなどして、食事が楽しみになるよう配慮している。食事の準備や後片付けは、できる範囲でお手伝いしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴は、週3回以上入っていただくよう配慮している。入浴時は、お風呂が楽しみになるように、利用者一人ひとりの好みの曲を流している。希望があれば夜間入浴も可能である。また、1ユニットだけではあるが、機械入浴もできるようになっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握しており、職員と一緒に掃除をしたり、食事のお手伝い、庭仕事、習字の得意な方には理念を書いていたいたり、利用者が、それぞれに役割を見出すことができる場面作りを支援している。また、ユニット合同の「ずんどこ体操」も楽しみの一つとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じ、散歩や買物に出かけたりするほか、ドライブやイチゴ狩り、外食、また町内の行事に参加したりと、利用者が外に出かける機会を多く設けている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、夜間のみ施錠しており、日中は鍵を掛けないケアを実践している。玄関には、鈴もつけており、利用者の出入りは、居間からも確認することができ、職員間で連携をとり見守り支援している。		

函館市 グループホーム かがやき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営者はじめ、職員、利用者が参加して、年2回消防署員立会いのもと、昼夜、休日を想定した避難訓練を実施している。避難場所も確保している。防災委員会を設置しており、今後地域の方々にも呼びかけ、合同で訓練を実施していくよう働きかけを行なう予定である。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の水分摂取量や、一人ひとりの食事量などを記録し、把握しているが、体重の増減や体調の状態に応じ、医師と相談しながら好みの物や、バランスのよい食事を提供している。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は、ユニットが開閉式の扉で繋がっており、合同でのレクリエーションの時は、扉を開け自由に行き来できるようになっている。広く開放的で、調度品も家庭的であり、台所も対面式で使いやすくなっている。一人掛けのソファや、和室の部屋もあり、利用者が思い思いの場所で、寛ぐことができるように配慮されており、居心地よく過ごせる場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、利用者が使い慣れた馴染みの家具や愛着のある物、また生活に必要な品を配置し、利用者が安心して居心地よく過ごせる配慮がされている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。